地域の情報をお届け!

呉トピックス

スイートピー出荷ピーク

県内最大の生産地、江田島市の沖・是長地区では、2月から3月にかけて特産「スイートピー」の出荷がピークを迎えています。日当たりの良さと温暖な気候を利用した花き栽培が盛んなこの地区で栽培するのは沖スイトピア部会の皆さんです。

5・5aのハウスで10種類・約4,000株を栽培する中井和人さんは収穫と「つるおろし」作業に一日を費やします。9月に種を播いたスイートピーは最大5～6mにもなるため、畝に立てた支柱に沿って管理しやすい高さにする「つるおろし」作業が重要。

中井さんは「猛暑で生育が心配だったが、かん水など日頃の管理でよく育ってくれた。華やかなスイートピーで贈る人も貰った人も幸せな気持ちになってほしい」と笑顔で話しました。

4月上旬まで広島の市場をはじめ、県内外5市場へ出荷。年間約30万本を見込みます。

▲丁寧に仕分けする中井さん

中晩かん出荷本格化

JAひろしまくれ選果場で1月中旬に紅八朔、2月にはるみ、ワシントンネーブル、不知火（デコポン）の選果が始まり、中晩かん類の出荷が本格化しています。管内の江田島、倉橋、蒲刈地区から集められた柑橘は光センサー選果機で選果、糖度と酸度、果皮色の濃淡や傷の有無を計測したのち作業員が選別して箱詰めします。

中晩かん類は相対的に夏以降の干ばつで例年に比べ若干小玉傾向ですが、その分糖度が凝縮され近年に無く濃厚な内容に仕上がっています。

▲はるみを選果する作業員

バレンタインに花を贈ろう ガーベラ栽培

2月14日のバレンタインに合わせて、近年、花を贈る「フラワーバレンタイン」が注目を集めています。江田島市鹿川地区の小滝農園では「フラワーバレンタイン」で人気のガーベラを10月から6月まで6aのハウスで栽培。定番の一重咲きの他、花びらが密集し丸みのある八重咲種など、需要に合わせ17種類1,430株を育てています。

扇風機や遮光カーテン、加温機などでハウス内の気温管理を徹底、収穫や箱詰めの際には花を傷つけないようビニール製のキャップやネットで保護するなど細心の注意を払います。

同農園代表の小滝正則さんは「ガーベラは存在感がある。ブーケだけでなく一輪から楽しめるのが魅力。日々の彩りに加え、気軽に手に取ってほしい」と話します。

これから4月から5月にピークを迎えるガーベラは、県内外市場や産直市に出荷されます。

▲様々なガーベラを栽培する小滝さん

家の光

創刊100周年に向けて『家の光』が2024年5月号から誌面リニューアル!!

お申し込みはお近くのJAへ

『家の光』愛読者拡大キャンペーン

誌　名	年間定価（税込）	割引額	年間購読価格（税込）
家の光	9,411円	629円	8,782円
地上	7,540円	618円	6,922円
ちゃぐりん	6,156円	492円	5,664円

誌代1年分を前納すると、1カ月分お得に!!

購読のお申込みは最寄りの各支店窓口まで

なるほど え～のう！ 営農情報

落葉果樹

共通事項

▽根の活動開始

3月に入り温暖な気温になると地上部の芽は急速に膨らみ、芽の内部では発育が進みます。

地下部では根の活動が盛んになり、養水分の吸収を開始します。

落葉果樹の発根は、地上部が生長する前から始まります。根は休眠せず、栄養が充実して地温と水分の条件が揃えばいつでも発根は起こります。（休眠期でも地温が安定している地下の深いところでは白い根の状態で活動を続けています。）

秋に増えた根が多い樹ほど、早く根の活動が始まり、養水分が地上部に送られ、早期に展葉（発芽した芽から葉が広がり光合成を開始すること）し、その年の良品多収につながります。

▽土壌の乾燥防止

根が動き始める時期に、土壌が乾燥すると、肥料の吸収や根の伸長が悪くなります。

無降雨の日が10日以上続いて、土が乾いている場合は、かん水を行ないましょう。

ただし、土壌条件や気象条件によって乾燥度合いは変化しますので、実際に土の湿り具合を確認して実施しましょう。

イチジク

▽かん水

イチジクは耐干性が弱く、水分要求量の高い果樹です。春先に土壌が乾燥すると発芽の遅れや生育の不揃いにつながってしまいます。

降雨が少なく土壌が乾燥するようであれば、7日間隔でかん水を行ないましょう。また、草を放置しておくと地温の上昇が妨げられ、発芽に影響を及ぼします。発芽前に除草を行ないましょう。

▽挿し木

挿し木をする園地は、排水が良く肥沃な場所を選びましょう。

ただし、株枯れ病やネコブセンチュウなど病害発生園での挿し木や、株枯れ病などに感染した樹から挿し木用の穂木を採ることは避けましょう。

穂木の長さは15～20㎝程度で切り、芽を三節付けた状態で一穂とします。

上部の一芽を残し土中に挿す部分は削り取ります。

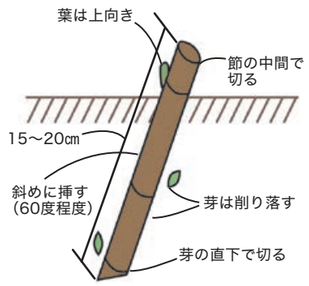


図　イチジクの挿し木

30㎝間隔で芽が地際から上向きに少し出るよう、斜めに挿し込みます。挿し木後はかん水を行ない、黒ポリマルチなど乾燥防止に努めましょう。

カキ

先月に引き続き、粗皮削りを実施します。主幹部や太い枝の分岐部を中心に、粗皮削りが有効となります。芽が動き出してからでは、樹体が衰弱するなどの悪影響を及ぼす可能性があるので、休眠期中に作業を終えるようにしましょう。

MEMO
3月になると、モモやスモモなどが開花期に入ります。作業が遅れないよう、計画を立てて実施しましょう。

モモ

花粉のある品種は、摘蕾を行ないます。蕾が膨らみ始め先端にピンク色の花弁が見え始めたころ（開花4～7日前）に行なうと、蕾が落ちやすく効果的です。しかし植栽本数が多い場合、すべての摘蕾をこの時期に行なうことは不可能なので、そのような場合は、開花までに終了させるようにします。

図　モモの摘蕾方法

家庭菜園

3月になると、いよいよ春夏野菜作りの準備が本格的になってきます。夏野菜の苗が販売される4～5月はまだまだ気温が上昇しにくく、併せて地温も上昇しにくい時期です。地温が上がりにくいと苗も成長しにくくなってきます。

栽培時期に幅を持たせ、露地栽培よりも早期の種まきや定植が可能となる「マルチ栽培」を用いると便利です！

▽マルチの効果

マルチの基本的な働きとしては次のとおりです。

1. 地温の調整
2. 水分の保持（乾燥防止）
3. 雑草の抑制
4. 病気の予防

その他にも、地表面を風雨から守るため、ゲリラ豪雨などによって急激かつ過剰に水分が入り込むのを防ぐ効果や、土が固まることなくふかふかの団粒構造を長く維持できるといった効果もあります。

材質によって得られる効果が異なります。栽培する野菜や時期、期待する効果に見合ったものを使用しましょう。

MEMO
野菜作りにとって良い効果を得られる資材を用いて、元気でおいしい野菜を作りましょう！

マルチシート（ポリフィルム）について

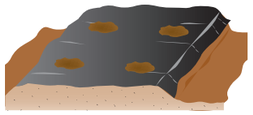
マルチ栽培で使用される「マルチシート」にはいくつか種類があります。色によって特徴が異なりますので注意しましょう。

～マルチの種類と効果・特徴～

◎：効果大　○：効果あり　—：効果なし

種類（色）	効果・特徴	地温を上昇させる／地温の上昇を抑える	雑草防止	害虫飛来防止
透明マルチ	・太陽光の透過率が一番高く、マルチの中で最も地温上昇効果が高い ・地温上昇が必要な時期（春先など）に播種・定植をする野菜におススメ！ ・夏季は地温上昇しすぎる危険性がある →シート上に敷きわらなどをして対策を！ ・光を通すため雑草の抑制効果はない	地温を上昇させる	—	—
黒マルチ	・光を通さないため雑草抑制効果が高い ・地温上昇効果は透明より劣る効果はある ・地温上昇が必要な時期（春先など）に播種・定植をする野菜におススメ！ ・シート自体が熱くなるので葉焼けに注意！ ・様々な野菜に用いることが可能		◎	—
シルバーマルチ	・光の反射で地温の上昇を抑える効果がある ・反射光を嫌うアブラムシなどの害虫の飛来防止の効果もある		○	◎
銀黒マルチ	・表が銀色、裏が黒色のマルチ ・地温の上昇を抑えたい時期（夏場など）に播種・定植する野菜におススメ！ ・地温上昇を抑える他、害虫（アブラムシ等）の飛来防止効果がある		◎	◎
白黒マルチ	・表が白で裏が黒色のマルチ ・地温上昇を抑える効果が高い ・地温の上昇を抑えたい時期（夏場など）に播種・定植する野菜におススメ！ ・遮光性があるので雑草抑制効果もある	地温の上昇を抑える	◎	—

ポイント！
- マルチシートにはサイズがあります。畝幅にあったものを選びましょう。
  （例）畝の側面もカバーする必要があるため、60㎝幅の畝なら約95㎝幅のものを、90㎝幅の畝なら約135㎝幅のものを選びましょう。
- マルチシートを張るのは、種まき（播種）や定植の直前ではなく、土づくりを済ませ、畝立ての後に行ないます。播種や定植の１、２週間前には敷いておきましょう。



他にも稲わらや麦わらなどを敷く「敷きわらマルチ」や、栽培終了後のマルチをそのまま土に漉き込むことができる「生分解性マルチ」もあります。

敷きわらマルチのポイント！
- マルチングの効果は、ポリフィルムも敷きわらも大きく変わりません。しかし、敷きわらならではの利点もあります。
- 敷きわらは、ワラ自体が水分を吸収するため乾燥にも過湿にも強く、湿度が一定に保たれます。ワラの隙間に空気があるので、温度が急激に上下することもありません。また、ウリ類など地這い栽培するものに敷きわらマルチをすると、ツルがワラに巻き付いて、地表に固定されます。さらに、最終的には分解されるので、畑の土の資材となります。
- 敷きわらマルチを利用する場合は、畝と平行の向きに下の土が見える程度の薄めに敷くようにしましょう。

JAひろしま　組合員のみなさまへ
床下無料診断 実施中！
※施工は有料です。
診断・施工は
ＪＡ取扱業者（株式会社アサンテ）が行ないます。
診断内容　床下等のシロアリ被害／湿気によるカビ・
腐朽基礎のヒビ割れ／柱・土台などの接合部のズレ

ＪＡひろしま呉地域本部
営農経済部 購買課
電話（0823）22-5176
〈診断・施工〉
株式会社 アサンテ
東証プライム上場
0120-955-694
（受付時間 8：30～19：30）
診断・施工はＪＡ取扱業者㈱アサンテが承ります。お近くのＪＡ窓口、または取扱業者アサンテまでご連絡ください。

ときめき女性部通信

恒例「お楽しみ会」を開催

ＪＡひろしま呉地区本部中町支部は２月上旬、江田島市の能美市民センターで「お楽しみ会」を開催し、部員や地域住民約70人が集まりました。

平成26年度から開催する「お楽しみ会」は部員や地域のみなさんに楽しんでもらおうと始まり、コロナ禍を経て８回目。今年は有志によるフラダンスやカラオケ、オカリナ演奏、最後は「マツケンサンバ」で大いに盛り上がりました。

▲趣向を凝らしたパフォーマンスは大盛況でした。

体にやさしい手作りみそ仕込み

ＪＡひろしま女性部呉地区本部沖支部は１月末、江田島市沖美町の沖美市民センターで部員15人が集まり、手作りみそを仕込みました。

▲作業を分担してみそを仕込む部員

2008年から続くみそ作りは、部員が安全・安心な減塩みそを家庭やＪＡの感謝祭で振舞いたいと始まり、毎年恒例になっています。

各自で桶や瓶、大豆を準備。部員は担当ごとに分かれ、茹でた大豆をミンチ状にして塩切米麹と混ぜて、団子にしたみそ玉を桶や瓶に空気が入らないように敷き詰めました。

同支部の泊野康子支部長は「出来は上々。部員や家族に人気の体にやさしい減塩みそ作りを続けたい」と笑顔で話しました。

役職員と意見交換し交流「役職員とのふれあい集会」

ＪＡひろしま女性部呉地区本部は16日、ＪＡ中町支店で「ＪＡ役職員とのふれあい集会」を開催しました。

女性の意見をＪＡ事業や組織活動の活性化につなげようと女性部の支部長ら10人とＪＡの大下俊哉常務理事や支店長ら18人が出席。ＪＡ事業概況や女性部活動などを報告、今後のＪＡ運営や組織活動などについて質問や意見を交わし、一緒に昼食をとって交流を深めました。

▲活発な意見交換が行なわれました

大下常務は「ＪＡとの交流を深め、協力することで組織力を高めてほしい。豊かで暮らしやすい地域社会の実現に連携して取り組みたい」と述べました。

同女性部の前田ミツヱ部長は「部員が力を合わせ、女性部の活動の意味や魅力を伝え組織を活性化させたい。ＪＡをよりどころに地域貢献、地域活性化につながるよう取り組む」と話しました。